

- ① 研究成果報告会
- ② 地域支援活動の紹介
- ③～④ 情報ひろば
- ⑤ HAT神戸掲示板
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター
MiRAi

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **59** 平成28年
(2016) 9月

ひょうご震災記念21世紀研究機構研究成果報告会

巨大災害と政治のあり方シンポジウム ～災害多発時代を迎え「国難」となる巨大災害にどう備えるか～ を開催しました

今回のシンポジウムでは、平成24～27年度に実施した研究プロジェクト「大震災復興過程の比較研究～関東、阪神淡路、東日本の三大震災を中心に～」の研究成果報告を行うとともに、これを踏まえて大災害発生時における政治のリーダーシップのあり方についてのパネルディスカッションを開催しました。

パネルディスカッションでは、「歴史的背景を踏まえた政治過程とアーカイブのあり方」「東日本大震災を踏まえた現代的論点」そして「マスコミと行政の情報発信のあり方」の3つの論点について各パネリストから報告があり、活発な議論が進められました。

行政職員、企業、各種団体、大学関係者や一般県民など多数の方々の参加を得て、盛況のうちに終えることができました。



【シンポジウムの内容】

▶ 日 時：平成28年8月23日(火) 13時30分～16時30分

▶ 場 所：ラッセホール 2Fローズサルーン

▶ 参加者：約250人

▶ 研究報告

大震災復興過程の比較研究～関東、阪神淡路、東日本の三大震災を中心に～

報告者：御厨 貴〔東京大学名誉教授・(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究統括〕

▶ パネルディスカッション

テーマ：大災害と政治のリーダーシップ

コーディネーター：御厨 貴〔東京大学名誉教授・(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究統括〕

パネリスト：奥 薫 淳二(海上保安大学校海上警察学講座講師)

武田 真一(河北新報社防災・教育室長兼論説委員)

手塚 洋輔(大阪市立大学大学院法学研究科准教授)

牧原 出(東京大学先端科学技術研究センター教授)

村井 良太(駒澤大学法学部教授)



●地域支援活動の紹介●

兵庫県こころのケアセンターでは、県内外で発生した災害や事件、事故等に起因する「こころのケア」に対して地域からの要請に基づき、体制整備についての助言や、こころのケアチームの派遣を行い、現地で被災者（被害者）と支援者への支援活動を行っています。

平成28年4月14日に発生した熊本地震では、4月16日から5月27日まで「ひょうごDPAT（災害派遣精神医療チーム）」のメンバーとして現地に赴き、本部や避難所において支援活動を行うとともに現地スタッフへの研修等を行いました。被災地には緊急的、集中的な対応だけでなく、今後も中長期的な支援を続けていく予定です。

また、今回の「ひょうごDPAT」派遣においての実践を県内外での今後の活動に生かせるよう県内46の登録DPATへの研修に役立てたいと計画しています。

平成23年に起きた東日本大震災についても、長期的な支援として、引き続き岩手県、宮城県、福島県のこころのケアセンター、保健所や市町保健センター等に対して継続的なコンサルテーションを行っています。

最近県内で発生した事件では、昨年3月に起きた洲本市殺害事件や自殺によるポストベンション（事後対応）などに対し、体制整備についての助言をはじめ、現地への職員派遣、研修会の講師派遣など地域への支援活動を行いました。

相談室では、日常の電話・面接によるトラウマ（こころの傷）、PTSD（心的外傷後ストレス障害）等に関する相談を行っており、ここ数年、子どもの虐待やDV相談の件数が増加しています。そこで、研究部を中心に、支援者向けに子どものトラウマ反応についてのコンサルテーションやトラウマ・フォーカスト認知行動療法（TF-CBT）についての研修など、子どものこころの健康についても継続的に支援しています。

今後も、これまで積み上げてきた活動を基に、災害や事件、事故等の発生時の支援活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

主な活動実績

- ・東日本大震災
- ・ニュージーランド地震
- ・平成21年台風9号災害（佐用町・宍粟市）
- ・中国四川大震災
- ・能登半島地震災害
- ・チリ大地震
- ・スマトラ島沖地震における津波災害（インドネシア）
- ・JR福知山線脱線事故
- ・新潟県中越地震災害
- ・熊本地震災害



熊本県庁での調整本部の活動



熊本県精神保健福祉センター活動拠点本部での活動



熊本地震被災地域での講演（玉名市）



熊本地震被災地域での講演（熊本市）

兵庫県こころのケアセンター

「こころのケア」シンポジウム参加者募集

兵庫県こころのケアセンターの研究報告と、「熊本地震を通して考える災害後のこころのケア」をテーマとする講演、パネルディスカッションを行います。

▶日時＝11月16日(水)13時30分～16時30分

▶場所＝兵庫県こころのケアセンター

▶プログラム

第1部 研究報告

福井 貴子(兵庫県こころのケアセンター主任研究員)

第2部 講演

講師：矢田部 裕介(熊本県精神保健福祉センター次長)

第3部 パネルディスカッション

▶定員＝150人

▶参加費＝無料

▶申込方法＝所定の参加申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送、FAXまたはEメールで下記へ。先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。

※下記ホームページからダウンロードできます

●申し込み・問い合わせ

兵庫県こころのケアセンター 研修情報課

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017

Eメール kensyu@j-hits.org

http://www.j-hits.org/

学術交流センター

21世紀文明研究セミナー2016受講者募集

このセミナーは、国際防災・人道支援協議会〔DRA(HAT神戸に立地する国際関係機関で構成)〕と連携し、5つの分野にわたる研究成果を県民の皆さんに還元するとともに、阪神・淡路大震災が提示した近代文明の諸課題について議論を深めることを目的に開催します。一流の講師陣と、高度で専門的な知識を求める受講者がディスカッションできる場を設けた講義スタイルを採用。「安全安心」「共生社会」「防災」「環境」「芸術」の5分野・全30講座のうちから、関心のある講座だけでも受講できます。ぜひご参加ください。

▶日時＝10月5日(水)～平成29年3月22日(水)の水曜および金曜の13時30分～15時

▶場所＝人と防災未来センター東館、兵庫県立美術館(芸術分野のみ)

▶分野テーマ(講座内容はホームページをご覧ください)

安全安心	減災社会に向けての新しい視座
共生社会	人口減少、少子・高齢化社会におけるライフスタイルと社会保障～地域におけるクオリティ・オブ・ライフの実現に向けて～
防 災	災害への備え
環 境	地球温暖化と暮らし
芸 術	挑戦する美術館―展覧会のさまざまなこころみ

▶定員＝各30人

▶受講料＝1講座につき500円



昨年度のセミナーの様子

▶申込方法

(1)郵送またはFAX

リーフレット折り込みの受講申込書(※)をご使用ください。

※下記ホームページからダウンロードした受講申込書も使用できます

(2)Eメール

件名を「21世紀文明研究セミナー申込み」とし、①申し込み講座の受講日、分野テーマ、講座合計数②氏名(ふりがな)③性別④年齢⑤連絡先(住所・電話・Eメール)⑥所属名を記入の上、下記へ。

●申し込み・問い合わせ

学術交流センター 事業課

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL 078-262-5714 FAX 078-262-5122

Eメール gakujuetsu@dri.ne.jp

http://www.hemri21.jp/exchange_center/index.html

第6回 自治体災害対策全国会議

大災害は、その都度異なる形で襲ってきます。これに迅速かつ的確に対応するため、全国の自治体職員が、被災自治体の復旧・復興への取り組みを共有しつつ、今後の災害への備えについて考える「自治体災害対策全国会議」を平成23年度から毎年開催しています。今年度は、「大規模災害と自治体連携」をテーマに、熊本地震、関東・東北豪雨等の教訓を踏まえ、今後の大規模災害にいかに備えるか、自治体間の広域連携はどうあるべきかを事例に即して考えます。

▶日時＝11月15日(火)13時30分～17時30分

11月16日(水) 9時30分～15時30分

▶場所＝兵庫県公館 大会議室

▶プログラム

1日目：シンポジウム

・特別講演：大規模災害にどう備えるか～最近の災害事例に学ぶ～
片田 敏孝(群馬大学大学院理工学部教授)

・基調報告①：熊本地震への対応と教訓～次世代への継承～

蒲島 郁夫(熊本県知事)
・基調報告②：平成26年広島豪雨災害を踏まえた防災・減災対策
松井 一實(広島市長)

・中間総括

2日目：パネルディスカッション

・特別報告：内閣府(直近の災害状況を踏まえた報告)

・第1部：大規模水害時の避難と情報

座 長：宇田川 真之(人と防災未来センター研究主幹)

報告者：関東・東北豪雨対応の検証と今後の対策

茨城県常総市

豪雨災害の教訓と三条市の防災対策

新潟県三条市

荒川下流・江東5区連携の広域避難体制

東京都江戸川区

・第2部：自治体間の広域防災体制の構築

座 長：永松 伸吾(関西大学社会安全学部教授)

報告者：東日本大震災の経験を活かした西原村への支援

宮城県東松島市

熊本地震の現場における受援対応

熊本県益城町

熊本地震における支援と南海トラフ地震に備えた広域防災体制

関西広域連合

・総括討議

※プログラム内容は変更の可能性があります

▶定員＝200人(自治体職員に限らずどなたでも参加していただけます)

▶参加費＝無料

▶申込方法＝下記ホームページから「第6回自治体災害対策全国会議チラシ」をダウンロードし、FAXまたはEメールで下記へ。

●申し込み・問い合わせ

学術交流センター 交流推進課

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122

Eメール gakujuetsu@dri.ne.jp

http://www.hemri21.jp/dcp/index.html

情報ひろば

平成28年度
兵庫自治学会研究発表大会のご案内

兵庫自治学会では、平成28年度の研究発表大会を開催します。どなたでも参加できます。ぜひご参加ください。

▶日時＝10月15日(土)10時～17時30分

▶場所＝兵庫県立大学神戸商科キャンパス
(神戸市西区学園西町8-2-1)

※神戸市営地下鉄「学園都市」駅下車徒歩約10分

▶大会テーマ「すべてのひとが活躍できるこれからの地域社会づくり」

・総会 主催者あいさつ・来賓あいさつ ほか(10時～10時35分)

・全体会(10時45分～12時30分)

基調講演 演題「AIと共存する未来、働き方の変革と、求められる能力」



講師の上田恵陶奈氏

＜講演の趣旨＞

少子化で労働力が減少する未来の日本。AIや外国人は、はたして労働力不足を解決できるのか。野村総合研究所が、オックスフォード大学や外部有識者と研究してきた成果をご紹介します。AIによる自動化は、ホワイトカラーに大きな影響をもたらします。そして、AIと共存する未来の職場では、業務のデジタル化と効率化が進み、人に求められる能力が多様化していくことをお示します。その一方で、AIが普及した未来像は、消費者や企業の選択によってさまざまな可能性の中から選び取るものであることを、具体的なシナリオ例でお話し申し上げます。

講師：上田 恵陶奈(野村総合研究所ICT・メディア産業コンサルティング部、未来創発センター兼務、上級コンサルタント)

＜略歴＞

東京大学法学部卒、英・エセックス大学政治経済学修士。情報・通信コンサルティング部、金融コンサルティング部などを経て現職。決済、ポイントCRM、コンテンツサービスなどを中心に、複数の事業領域にまたがる戦略の構築・実行支援、および政策立案支援に従事している。2030年の日本に向けたビジョン検討においてオックスフォード大と共同研究し「迫りくる労働力不足をチャンスに変える」として成果を発表。金融法学会会員、情報ネットワーク法学会会員。主な著書に『企業通貨マーケティング』『ITナビゲーター2016年版』(いずれも共著)等がある。

てい
鼎 談

上田 恵陶奈(講師)

山下 淳(兵庫自治学会代表運営委員、関西学院大学法学部教授)

加藤 恵正(兵庫自治学会代表運営委員、兵庫県立大学政策科学研究所教授)

・分科会(13時30分～16時10分)

研究成果の発表の場として分科会を開催します。各分科会とも出入り自由で、参加者による意見交換の機会も設けています。

第1分科会：産業

学識コーディネーター：

加藤 恵正(兵庫県立大学政策科学研究所教授)

行政アドバイザー：

竹村 正樹(兵庫県産業労働部政策労働局長)

発表者所属・氏名	テーマ
神戸市シルバーカレッジ国際交流・協力コース20期生 フロティア神戸 長浜 速雄	神戸、世界をリードする国際都市へー神戸の国際都市としての再生、発展に向けての提言
神戸女子大学 小沢 康英	オールドニュータウンの雇用面の機能の見直しー明舞団地を事例としてー
県立工業技術センター繊維工業技術支援センター 藤田 浩行	新規炭素繊維加工技術を活用した研究開発による播州織産地の新産業創出支援

第2分科会：教育・生活

学識コーディネーター：

成清 美治(神戸親和女子大学客員教授)

行政アドバイザー：

小橋 浩一(兵庫県教育次長)

発表者所属・氏名	テーマ
神戸市立六甲アイランド高等学校 吉田 高子	地域社会の明日を担う高校生へのシティズンシップ教育に関する研究～A高校の未来志向型教育の実践より
県立人と自然の博物館 小笠 誓治	年配者と子どもの世代間交流の推進～ひとはくのアウトリーチ教育の実践と課題
県企画県民部県民生活課 稲見 俊範	地域における認知症の疑いのある高齢者を対象とする新たな運転免許許可制度の導入について
(公財)兵庫県国際交流協会 緒方 孝昭	兵庫の国際交流が地域にもたらす一千万円を超える経済効果とその評価について

第3分科会：環境

学識コーディネーター：

近藤 明(大阪大学大学院工学研究科教授)

行政アドバイザー：

遠藤 英二(兵庫県農政環境部環境創造局長)

発表者所属・氏名	テーマ
特定非営利活動法人創エネ神戸 山田 通裕	市民共同発電所の普及策に関する研究
(公財)ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター 堀江 洋佑	兵庫県のPM2.5注意喚起発令に係る地域区分の検討
兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 鈴木 武	身近な生き物から地域の特徴を知る～市民参加型調査の手法と成果
県企業庁北摂広域水道事務所 武市 久仁彦	兵庫県営水道の安定した事業継続ー新水道ビジョンへの対応ー

第4分科会：地域づくり

学識コーディネーター：

畑 正夫(兵庫県立大学地域創造機構教授)

行政アドバイザー：

濱西 喜生(兵庫県企画県民部地域創生局長)

発表者所属・氏名	テーマ
但馬県民局地域政策室 宇野 真由美	歩くことそのものを楽しむツーリズムの推進に向けて～イギリスフットパス事例調査報告～
関西学院大学経済学部前田ゼミ・自治体人口減少対策研究グループ 松岡 遼太郎、菊池 晴奈、杉山 貴司、東 果帆、井上 楓、中村 太一	地方自治体の人口減少対策の課題ー財政面からみた効率的、持続的な施策の可能性
加東市若手プロジェクトチーム「ゆめい」 上月 克己	地方創生時代をどう生き残るか～データから判断する加東市のまちづくりのあり方～
関西学院大学経済学部前田ゼミ・地域活性化研究グループ 福田 康介、南 紗貴、吉田 浩幸、高木 紗耶、薄木 菜那美	兵庫県における農商工連携のさらなる発展のための課題

・交流会(16時30分～17時30分)

▶参加費＝無料

兵庫自治学会とは、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指している団体です。会員を対象とした研究活動への助成や成果発表の場の提供など、さまざまな活動を行っています。ぜひ多くの皆さまの参加をお待ちしています。

■会員になるには

年会費2,000円。次のいずれかに該当する方ならどなたでもご入会いただけます。兵庫県職員、県内市町職員、県内に在住または在勤の学識者・NPO職員・個人(会員数 約620人)。会員には会報のほか、年1回『兵庫自治学』をお届けします。

▶申込方法

下記ホームページから申込書をダウンロードし、FAX、Eメール、郵送のいずれかで下記へ。

※入会フォームもホームページにあります

●申し込み・問い合わせ

兵庫自治学会事務局(学術交流センター内)

TEL 078-262-5714 FAX 078-262-5122

Eメール gakujuitsu@dri.ne.jp

http://hpsa.net/

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展

「日伊国交樹立150周年記念 世界遺産 ポンペイの壁画展」

西暦79年、ヴェスヴィオ山の噴火に見舞われたポンペイ。世界遺産に指定されたこの街とその周辺の遺跡からは、2000年の時を超え、色鮮やかな壁画が次々と出土しました。日本初公開の作品もあり、美術ファン、考古学ファンも必見の展覧会です。



日本初公開

〈赤ん坊のテレフォスを発見するヘラクレス〉
後1世紀後半 ナポリ国立考古学博物館
©ARCHIVIO DELL'ARTE - Luciano Pedicini / fotografo

■会期＝10月15日(土)～12月25日(日)
■観覧料＝一般1,500円、ペアチケット2,400円、大学生1,100円、高校生・65歳以上750円、中学生以下無料

チャンネル7

「高橋耕平―街の仮縫い、個と歩み」



注目作家を紹介するシリーズ展。今回は高橋耕平(1977-)の個展を開催します。21年前の阪神・淡路大震災以後の、都市の経験や記憶をテーマに、映像、写真等から成る新作インスタレーションを発表します。

高橋耕平「神戸市の路上・電線点検作業」
2016年
※引用資料:人と防災未来センター蔵

■会期＝10月15日(土)～11月20日(日)
■観覧料＝無料
◎休館日＝月曜日(10月10日(月・祝)は開館、翌11日(火)は休館)
◎開館時間＝10時～18時(金曜、土曜は20時まで)
※入場は閉館の30分前まで
TEL 078-262-0901(代) <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA関西

◆食べることから始める国際協力!

JICA関西食堂の月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完

全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理は10月にフィジー料理、11月にインドネシア料理をご用意します! ぜひ、お気軽にお立ちください。



写真は9月の西アフリカ料理

メニューの詳細と写真については、こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

■営業時間＝(昼)11時半から14時まで
(夜)17時半から21時まで

※各終了30分前ラストオーダー

※年中無休(年末年始を除く)

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)市民参加協力課
TEL 078-261-0384 FAX 078-261-0357

Eメール jicaksic-event@jica.go.jp

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!

→<http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

活動資金にご協力をお願いします

～恩返しの気持ちを胸に～

2度にわたる震度7の激震で甚大な被害をもたらした熊本地震。日本赤十字社兵庫県支部では救護班を直ちに派遣し、阪神・淡路大震災でいただいた全国からの支援への恩返しの気持ちを胸に、被災された方々に寄り添いながら、救護所や巡回などによる診療、衛生・健康管理、こころのケアなどにあたりました。



赤十字が行う活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金によって支えられています。いただいた資金は、熊本地震災害で被災された方々の支援をはじめ、今後起こり得る災害への備えなど、皆さまのいのちと健康を守る活動に生かしてまいります。

■ご協力方法(郵便局・ゆうちょ銀行の場合)

口座記号番号 01110-0-1136

口座加入者名 日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取り扱いの場合、振込手数料は無料です

平成28年度、新たな災害救護拠点を整備!!



大規模災害に備え、全国各地の被災地への支援や全国からの支援の拠点となる施設の整備を計画しています(場所:三木市)。

◎問い合わせ

TEL 078-241-8921

赤十字 兵庫

検索

あった、あった、ここや。
えらい大きい会社やなあ、ドキドキしてきたわ。
あかん、鎮まれ心臓
営業マンに弱気は禁物、最初が肝心や。

初めて出会った
人と人とを

つながる。

それが、
わたしたちのしごとです。

「はじめまして。カワサキと申します」
名刺を交換したらお付き合いの始まり。
小さな紙片からどれだけ仕事広がるか、
さあ、ガンバルぞお〜!

株式会社 神戸新聞総合印刷

【神戸新聞総合出版センター】

<http://www.kobenp-printing.co.jp/>

夏休み防災未来学校



ロープワークでミサンガをつくろう!

ロープの結び方には多くの種類があり、このプログラムでは、縄ばしごとしても活用できる「二重ハの字結び」と「本結び」を学びました。ロープで結び方を覚えた後、オリジナルのミサンガを作り、かわいい出来上がりに参加者は満足げな様子でした。



ペットボトル地震計をつくろう!

本物の地震計に触れて仕組みの説明を聞いた上で、ペットボトルや乾電池などの身近な素材を使ったペットボトル地震計を作りました。ハンダごてを使うなど難しい工程もありましたが、保護者と協力して完成させていました。地震観測を行っている京都大学阿武山観測所の協力を得て作った本格的な地震計は、夏休みの工作にもなる作品です。



1枚の布をいろいろ役立てよう!

ペットボトルや瓶などを安全に運ぶ包み方や、履物の代わりになる簡易シューズの作り方など、大判ハンカチ1枚を使ったいざというときに役立つ知識を学びました。参加者の多くが震災を経験したことがない子どもたちで、地震では割れたガラスで家の中で足をけがすることがあるという話を聞き、備えの大切さも一緒に学びました。



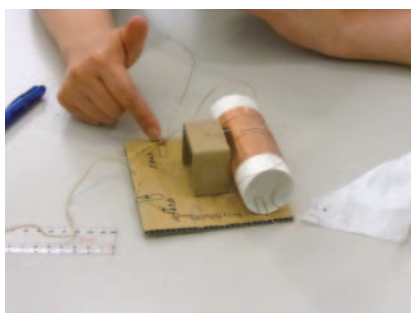
地震体験車「ゆれるん」がやってくる

地震が発生したときにどのような行動をとればいいのかを学ぶため、神戸市民防災総合センターの協力の下、地震体験車で大地震の揺れを体験しました。家族連れをはじめ、多くの方が参加し、乳幼児を抱えた保護者からは「実際に揺れを経験してみても子どもを守る難しさを実感した」という声も上がり、いざというときを考えるきっかけになりました。



サバイバル!手作りラジオに挑戦しよう!

災害時に役立つラジオの原理を学びながら、ダンボールやクリップなどの身近な物を使ってラジオを手作りしました。完成したラジオから音が聞こえると一斉に歓声が上がり、喜ぶ姿が印象的でした。工作に入る前、実物に触りましたが、子どもたちの多くがラジオを使う機会がなく、周波数を合わせられないことに保護者も驚いていました。



オリジナルポーチを手作りしよう!

毎年、バージョンアップしている人気のプログラムで、いざというときに役立つ物をかばんやポケットに入れておくためのポーチを作りました。全て手縫いのため大変そうでしたが、好きな布やリボンを選んで作ったオリジナルのポーチが出来上がると、子どもたちはとても満足そうでした。



2016レポート

センターでは夏休み期間中(7月19日～8月31日)に、子どもから大人まで楽しみながら、防災・減災について学ぶことができる各種参加型プログラムを用意し、災害のこと、防災・減災のことを家族や友達と一緒に考えるイベントを行いました。



資料室&収蔵庫見学 謎解き!ひとぼうツアー

当センターで震災資料を保存している収蔵庫を見学し、収集された資料がどのように保存されているかを学びました。普段は入れない場所が見学できたと来館したことがある子どもたちも興味深そうに見学していました。



ふしぎサイエンス実験 空気や水が押す力

「洪水と津波、台風と竜巻。似ているけれどもどう違うのか」。自然界の不思議な現象を、ペットボトルと水を使って手作りした装置を用いて実験。空気と水の力の働きなどを楽しく学びました。



六甲山の災害展2016

兵庫県 治山課、六甲治山事務所などの協力を得て、過去に起こった六甲山系の土砂災害の写真展示や、土石流モデル実験などを実施しました。2014年に起きた広島市の土砂災害をはじめ、近年、大雨による災害が多発していることから、多くの来館者が足を止めて見学していました。



地球の中のふしぎを発見!

地震がどうやって起こるかを、プレートや活断層など地面の中について学びながら教わりました。グループに分かれた断層実験では、四角いクリアケースの中に小麦粉とココアで断層を作り、あらかじめ壁面に設置しておいた押し板を移動させることで、断層がどのように動くか確認。実際、目で見えたことで、小学生も分かりやすかったようです。



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※()は20人以上の団体料金
※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

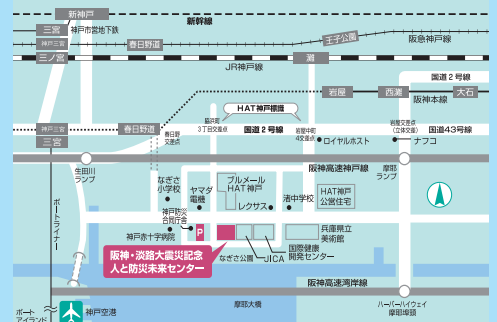
休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月6日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅から約15分
 - ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



「HAT減災サマー・フェス」を開催しました

当センターでは、昨年10月から西館全面の夜間ライトアップを行っており、ライトアップを活用した地域交流イベント「HAT減災サマー・フェス」を、8月27日(土)に開催しました。

屋外ひろばを中心に行われた「減災縁日」では、気軽に楽しみながら防災・減災の知識が身に付く体験プログラムをテントごとに実施。開催時間の約30分前にはすでに多くの方が来場されました。「たんか運び体験」「南極の氷に触れてみよう!」などプログラムは多彩で、家族連れを中心に終日にぎわいをみせていました。

こころのシアターでは、予約申込が殺到した夏休み特別映画会が開かれ、「ミニオンズ」が上映されました。「減災縁日」に参加した大半の方が申し込んでおり、楽しそうな姿が印象的でした。

19時からは屋外ひろば特設ステージで「ライトアップ スペシャルプログラム」が開催されました。河田恵昭センター長、脇の浜ふれあいのまちづくり協議会の谷口道泰防災部長、なぎさふれあいのまちづくり協議会の門脇龍三委員長によるあいさつの後、来場者のカウントダウンの掛け声と渚中学校防災ジュニアリーダーのアクションに合わせてライトアップを実施。武庫川女子大学の連弾ユニット「dolce」による電子ピアノの生演奏もあり、来場者は光と音の饗宴に酔いしれました。

その後、カフェ&レストラン「マリン」南側のウッドデッキを会場にサマー・フェス最後の催し「減災食試食会」を開催。家族や地域の方同士で特製クリスピーチキンカレーを味わいながら、ゆったりとした時間を過ごしていました。

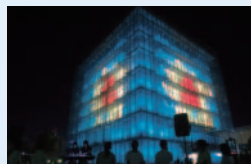
HAT神戸の住民の方を中心に多くの方が来場され、交流の場として活用いただけるイベントとなりました。



「たんか運び体験」



「南極の氷に触れてみよう!」



西館全面のライトアップの様子



「減災食試食会」

実践的防災研究についての県および内閣府との意見交換会を実施

当センターで実施している実践的防災研究について、7月19日(火)は兵庫県災害対策センターで県と、29日(金)には中央合同庁舎8号館(東京都)で内閣府と意見交換会を実施しました。

実践的な防災研究を柱の一つにしていることから、設立・運営費の出資母体である県と国(内閣府)に対して、定期的に研究成果や研究計画内容を研究員から説明し、防災・減災の最前線にいる行政機関との意見交換を通じてニーズを把握し、研究内容に取り入れています。

県との意見交換会では、防災監をはじめ県防災局幹部職員が参加する中、「中核的研究プロジェクト」の広域巨大災害における組織間連携方策のあり方に関する研究や、災害時における市町村業務や災害時要配慮者の避難に関する支援のあり方などについて意見交換しました。

また、内閣府との意見交換会では、内閣府官房審議官をはじめ、文部科学省、国土交通省、国土地理院、防衛省等関係省庁の職員が多数出席する中、避難所のマネジメントや救援物資の効率的な流通のあり方など、今年4月に発生した熊本地震の対応を踏まえた研究のさらなる進展を期待する旨の意見がありました。

今後も、当センターでは実践的防災研究を進めていきます。



県との意見交換会



内閣府との意見交換会



Hem21NEWS
vol.59

平成28年9月発行

(公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部
TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター
TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください